

昭和村の人物伝(5)

星野 泰助翁

― 赤城高原の開拓と村の
教育行政発展に大きく貢献 ―

『利根沼田の人物伝』(高山正著・上毛新聞社)に掲載された、村にゆかりのある人物の中から今回は星野泰助翁を紹介する。



星野 泰助 翁

星野泰助は、大正三年(1914)七月、片品村須賀川で農家の長男として生まれた。家業の農業を継いだ。昭和十年から終戦まで兵役に就いた。従軍中に負傷した泰助は、その後遺症の治療のため旧糸之瀬村の赤城高原開拓地で生活し沼田の病院に通った。誠実で口にしたことを何が何でもやり遂げる泰助は、赤城高原農業協同組合(開拓農協)の設立に乞われ協力した。自らも開拓者となり、地元片品村の田畑を手放して昭和二十六年に正式に赤城高原に居を構えた。その後、開拓農協の組合長や群馬県開拓農業協同組合でも要職に就き、広く内外の

開拓行政のトップリーダーとして活躍した。

また、赤城高原の入植者を苦しめていた水不足を解決すべく、開拓農協として陳情や要請を続け、ついに群馬県初となる畑地かんがい事業が採択された。泰助は、昭和三十三年に設立された赤城北ろく土地改良区の理事長としても手腕をふるった。

また、この大事業と並行し、村教育委員や教育長として、村の教育や文化などの振興にも長きにわたり尽力した。

かつて、教育委員会に在職した私が、仕事を通じて関わりのあった翁を思い出すのは、へき地など遠隔地に異動した教職員の激励訪問を望んだことだった。私は喜んで同行を引き受けた。

さらに別の時、北海道で開かれた中体連全国大会に出場した当時の南中学校女子剣道団体と卓球男子個人の三年生の応援に行った。当時教育長だった翁が、私に「島田君、飛行機の往復では外の景色が何も見えない。帰りは新幹線で行つてはどうか」と気遣ってくれたのである。

参考 利根沼田の人物伝

昭和村ボランティアガイドの会

事務局長 島田 民夫



地域包括支援センターだより

いつでも安心して住みよい村を目指して!

地域包括支援センターでは、高齢者の権利を守り保護をする権利擁護業務を行い、支援が必要な人に適切なサービスをつなげています。社会福祉協議会で行っている主な権利擁護事業について紹介します。気になることや不安なことなどがありましたらご連絡ください。



◆日常生活自立支援事業

認知症高齢者・知的障がい者・精神障がい者などの判断能力が不十分な方が、自立した生活が送れるように支援します。

主な支援内容は「福祉サービス利用のお手伝い」「日常的な金銭の管理の支援」「重要な書類など(通帳や金融機関届出印)の預かりサービス」などを行います。



◆法人後見事業

法人後見事業とは、知的障がい・精神障がい・認知症などによって、判断することに不安や心配のある方が、契約や手続きをするときのサポートをする事業です。

社会福祉協議会として後見業務を行いますので、社会福祉に関わる専門職による、きめ細かく、適切なサポートが可能になります。



問合せ 地域包括支援センター ☎20-1126

